



丹波カルデン便り

No. 1-20号

7月中旬

収穫のすんだスイートコーンを、草刈り機で一気に刈りこんだ。猛暑は続いているが、これが済むと夏が半分終わった気分になる。今年は、4畝のうち2畝は2週間遅れで種を播いたが、出来栄は最初のほうがずっとよかった。でも実の大きさも甘みも昨年のほうがよかったような気がする。

となりに植えた黒豆や里芋の畝の間に紙マルチを敷いて、刈り取ったスイートコ



ーンをばらまいた。この時期、10日に1回は畝の草刈りをしないと、まだ苗が小さいので草に負けてしまう。紙マルチをすることで、その作業からだいぶ解放されるだろう。でも紙マルチはすぐビリビリと破れる。ビニールのマルチは土に食い込んで、後の処理がたいへんなので、来年は土に還元できる有機系自然素材のマルチを使いましょうと、管理農家さんと話し合っているところ。

.....



7月30日、朝の9時ころ。丹波里山くらぶの合宿研修（神池寺キャンプ）の帰り路に広がる青田風景。早朝はとくに美しい。

山ひとつ背中に重し田草取り

（大島蓼太）

近年、この句のような光景はほとんど見かけないが、農家さんの背中には草刈り機。早朝からブンブンうならせて、畦道の草刈りに励んでいる。